

ここに宇宙開発の先人達の功績を讃え、  
深い感謝と敬意の気持ちを込めるとともに、  
困難に立ち向かう強い意志と想いを後世へと伝え残すため、  
多数の方々の賛同をいただきながら、  
糸川英夫博士の立像を建立いたしました。

平成24年11月11日

糸川英夫博士生誕100周年記念事業実行委員会

— 委員 —

会長	永野 和行	肝付町長
副会長	中窪 勉	肝付町議会 議長
監事	福永 等	肝付町商工会 会長
	坂元 秀明	肝付町 副町長
	有留 讓	肝付町議会 副議長
	佐伯 和久	肝付町議会 総務・文教委員会委員長
	柳田 恵子	肝付町地域女性団体連絡協議会 会長
	津代 道男	内之浦漁業協同組合 組合長
	谷山 久男	高山漁業協同組合 組合長
	川上 正廣	内之浦森林組合 組合長
	石倉 勝美	肝付町商工会 副会長
	山川 忠夫	肝付町振興会長連絡協議会 会長
	愛甲 隆一	肝付町振興会長連絡協議会 副会長
	白坂 直道	内之浦旅館業組合 組合長
	飯ヶ谷 香	JA 鹿児島きもつき農協高山支所 支所長
	鳥越 祐治	JA 鹿児島きもつき農協内之浦支所 支所長
	前原 和幸	うちのうら銀河マラソン実行委員会 委員長
	山下 正博	大海酒販株式会社 代表取締役
	藤崎 徹	肝付町さくら会 会長
	牧 工	住民代表
	橋本 雅子	住民代表

— 名誉委員 —

秋葉 鏝二郎	宇宙科学研究所 名誉教授
松尾 弘毅	宇宙科学研究所 名誉教授
的川 泰宣	JAXA 名誉教授
中島 俊	JAXA 名誉教授
稲盛 和夫	京セラ株式会社 名誉会長
伊藤 祐一郎	鹿児島県知事
加山 俊夫	銀河連邦サガミハラ共和国 大統領（相模原市長）
戸田 公明	銀河連邦サンリクオオフナト共和国 大統領（大船渡市長）
柳田 清二	銀河連邦サク共和国 大統領（佐久市長）
斉藤 滋宣	銀河連邦ノシロ共和国 大統領（能代市長）
伏見 悦夫	銀河連邦タイキ共和国 大統領（大樹町長）
高橋 隆文	関東肝付会 会長
井手 重治	関西肝付町高山会 会長
坂元 健一	関西内之浦会 会長
中川 十郎	日本インテリジェンス協会 理事長
米盛 幹雄	株式会社時評社 会長
平原 一雄	財団法人東洋学林 理事長

銅像建立協賛金の収納状況

（平成24年11月7日現在）

- 金額 18,266,495円
- 件数 3,426件

銅像制作者プロフィール  
本郷 寛 氏

1951年 京都府生まれ  
1976年 東京藝術大学大学院  
美術研究修士課程彫刻専攻修了  
2004年～ 東京藝術大学美術学部 教授

【主な作品】

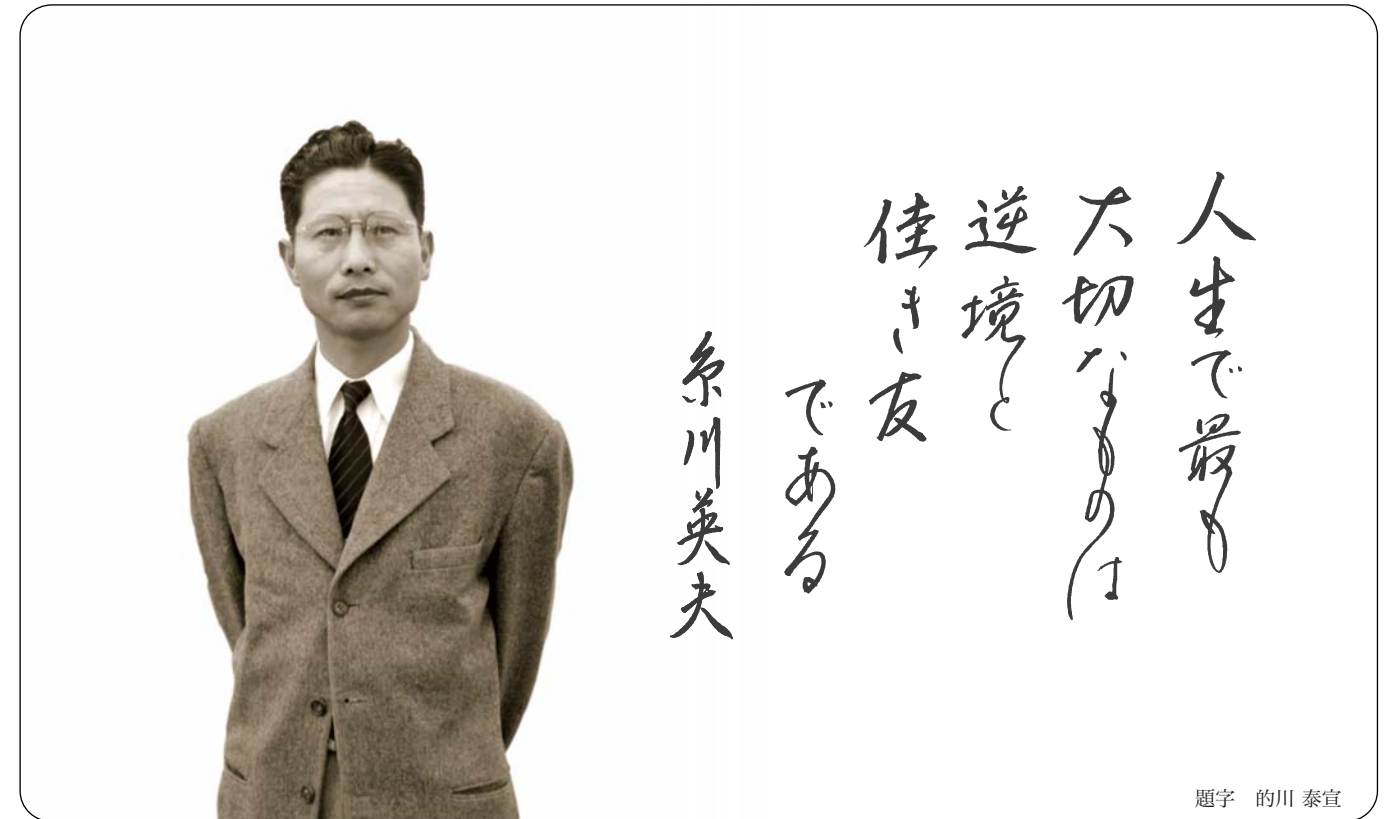
1978年 アンネ・フランク像  
1990年 田中正造像



主催／糸川英夫博士生誕100周年記念事業実行委員会

事務局／肝付町企画調整課

後援／内閣府宇宙戦略室、JAXA、鹿児島県、東京大学、銀河連邦（サガミハラ共和国・ノシロ共和国・サク共和国・サンリクオオフナト共和国・タイキ共和国・ウチノウラキモツキ共和国）、国分寺市、由利本荘市、南日本新聞社、KYT、KTS、KKB、MBC、NHK鹿児島放送局、松竹株式会社、東映株式会社、20世紀FOX映画、株式会社時評社



題字 的川 泰宣

## 糸川英夫博士銅像建立記念式典・除幕式 式次第

1. 開式の辞
2. 建立者代表あいさつ  
・永野 和行 糸川英夫博士生誕100周年記念事業  
実行委員会会長（肝付町長）
3. 来賓祝辞  
・丹下 甲一 鹿児島県副知事  
・秋葉 鏝二郎 宇宙科学研究所名誉教授
4. 作者あいさつ  
・本郷 寛 東京藝術大学教授
5. 銅像除幕
6. 閉式の辞

平成24年11月11日（日）午前10時～  
於 JAXA内之浦宇宙空間観測所

糸川英夫博士生誕100周年記念事業実行委員会

# 銅像建立によせて



糸川英夫博士  
生誕 100 周年記念事業  
実行委員会  
会長 肝付町長  
なが の かず ゆき  
**永野 和行**

日本初の人工衛星「おおすみ」を始め、数多くの科学衛星や宇宙探査機を打ち上げ、観測を行うなど、我が国の宇宙開発で重要な役割を果たしてきた内之浦宇宙空間観測所は、今年で開設 50 周年を迎えます。そして、この観測所を建設するにあたり、内之浦の地を選定した「日本の宇宙開発の父」糸川英夫博士は、今年で生誕 100 周年を迎えます。

観測所の開設に伴うインフラ整備や最先端の科学との交わりは、地元住民の生活と意識を大きく変えることとなり、また、ロケット関係者と住民が半世紀にもわたって築いてきた良好な関係は「世界でも、内之浦ほど住民と交流が深い発射基地はない」と称されるほどになりました。観測所の存在は、住民にとっての誇りであり、アイデンティティとなっているのです。

私どもは、宇宙開発の先人達の功績を讃え、深い感謝と敬意の気持ちを込めるとともに、困難に立ち向かう強い意志と想いを後世へと伝え残すため、ここに糸川英夫博士の立像を建立いたしました。

なお、今回の銅像建立にあたり、協賛金の募集を呼びかけましたところ、全国の方々から実に多くのご支援を賜りました。末筆ながら、ここに厚く御礼申し上げます。



糸川英夫博士  
生誕 100 周年記念事業  
実行委員会 名誉委員  
あき ば りょう じ ろう  
**秋葉 鏡二郎**

宇宙科学研究所名誉教授  
東京大学名誉教授  
1955 年東京大学大学院でペンシルロケット実験に参加。以来、科学衛星計画の推進に携わる。特に、我が国初の人工衛星「おおすみ」や、ハレー彗星探査機「さきがけ」、「すいせい」などの打ち上げのためのロケット開発に貢献した。元鹿児島宇宙空間観測所長。

この地に、糸川英夫先生の卓見で科学観測を目的としたロケットの打ち上げ場が設けられてから 50 年を経た年に当たり、奇しくも生誕 100 年を迎えた先生の銅像が建立されることになりました。

先生のご業績の後を継ぎ、日本の宇宙開発を担ってきた後継者たちにとって大きな喜びです。そしてこの機会に、特に糸川先生と共に初期の苦難の時代を支えてくださった諸先輩として、東京大学の高木昇、斉藤成文、玉木章夫、森大吉郎、野村民也の諸先生ならびに産業界代表として戸田康明氏のお名前を明記し、併せて感謝の念を捧げます。また、開設当初お世話いただいた地元の久木元峻町長、田中キミ婦人会長のお名前も明記さるべきでしょう。

本施設は、世界に類を見ない学術目的の宇宙センターです。時代の変遷とともに、学術研究の内容も研究者層も多様化してきました。これからは、新たな運用や一機関の専用施設という態様からの脱却も迫られるかも知れません。けれども、これまでに培われてきた地元との強固な協力関係は時代を超えて受け継がれ、いつまでも宇宙活動の先端を切り拓く役割を担い続けるに違いありません。

一層の発展に期待しております。



糸川 英夫 (いとかわ ひでお:1912-1999)

1912年(明治45年)7月20日生まれ 東京都出身  
ペンシルロケットの開発、水平発射に始まり、内之浦への射場選定など、日本の宇宙開発に大きな功績を残し「日本の宇宙開発・ロケット開発の父」と呼ばれる。

1912 年 (明治 45 年)	7 月 20 日、東京市麻布区 (現、東京都港区西麻布) で生まれる。
1935 年 (昭和 10 年)	南山小学校、第一東京市立中、東京高校を経て、東京帝国大学工学部航空学科を卒業。中島飛行機に入社し、一式戦闘機「隼」などの設計に関わる。
1941 年 (昭和 16 年)	東京帝国大学第二工学部助教授就任。
1948 年 (昭和 23 年)	東京大学教授に就任。
1949 年 (昭和 24 年)	音響工学で博士号取得。
1953 年 (昭和 28 年)	医療電子学研究発表のため半年間渡米。戦後の日本におけるロケット開発の必要性を強く抱いて帰国。
1954 年 (昭和 29 年)	東京大学生産技術研究所内に A V S A (Avionics and Supersonic Aerodynamics: 航空及び超音速空気力学) 研究班を組織。航空機に替わる超音速・超高層を飛べる飛翔体を作ろうという「ロケット機」構想を発表。
1955 年 (昭和 30 年)	4 月に東京都分寺市でペンシルロケットの水平発射実験、続いて 8 月からは秋田の道川海岸で飛翔実験を実施し、同月ペビロケットの打ち上げ実験を開始。
1956 年 (昭和 31 年)	翌年から始まる I G Y (国際地球観測年) に向けてカップロケットの打ち上げ実験を開始。
1958 年 (昭和 33 年)	2 段式 K-6 型ロケットが高度 60km に到達し、I G Y に参加。



ペンシル発射を待つ糸川博士 (千葉)



ロケット発射のカウントダウンを行う糸川博士 (秋田)



内之浦町婦人会が土木工事の作業奉仕しているところへ慰問・激励に訪れた糸川博士 (撮影: 牧工)



久木元峻内之浦町長宅にて、役場や営林署などの地元関係者と交流する糸川博士 (左から 2 人目)

(画像提供: ISAS / JAXA、橋本雅子)

1960 年 (昭和 35 年)	ロケットの飛行性能向上に伴い、日本海側での打ち上げに限界を感じ、新たな発射場を求めて太平洋側を全国行脚を行う中で久木元峻内之浦町長に面会し、内之浦へのロケット実験場建設の構想を伝える。
1962 年 (昭和 37 年)	2 月、東京大学鹿児島宇宙空間観測所 (K S C) 起工式。K-8-10 ロケット事故 (道川海岸)。
1963 年 (昭和 38 年)	人工衛星打ち上げを目指し、M (ミュー) ロケットの開発に着手。東京大学鹿児島宇宙空間観測所 (K S C) 開所式。
1967 年 (昭和 42 年)	3 月、L (ラムダ) 4S 型ロケットによる日本初の人工衛星打ち上げが苦戦を強いられていた中、東京大学を退官し、後進にその夢を託す。同年、組織工学研究所を設立し、これを機に宇宙開発の世界から引退。
1970 年 (昭和 45 年)	2 月 11 日、日本初の人工衛星「おおすみ」の打ち上げに成功。共に宇宙開発を進めてきた後進の努力の結実であり、これにより日本は世界で 4 番目の人工衛星打ち上げ国となる。
1974 年 (昭和 49 年)	著書「逆転の発想」を出版、ベストセラーに。
1980 年 (昭和 55 年)	東京交響楽団理事長就任。
1990 年 (平成 2 年)	長年かけて自作したヴァイオリン「ヒデオ・イトカワ号」を完成させる。
1992 年 (平成 4 年)	80 歳の誕生日を期して、ヴァイオリンのコンサートを開催。
1995 年 (平成 7 年)	長野県丸子町 (現、上田市) に移り住む。国際音楽村の設計に携わり、完成させる。
1999 年 (平成 11 年)	療養中であった丸子町の病院で永眠。享年 86 歳。
2003 年 (平成 15 年)	M-V-5 号機で打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ」がサンプリターンを行った小惑星 25143 は、糸川英夫博士にちなんで「イトカワ」と命名された。